



神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 57

2007年
6月 7月

役員会報告..... 1
 神奈川県科学センター
 (KEREC)訪問..... 2
 第6回親子で楽しむ環境展を
 終えて..... 2
 懇談会レポート..... 3
 環境・公害研究合同発表会に参
 加して..... 3

部会報告
 エネルギー部会..... 4
 ケナフ部会..... 5
 自然環境部会..... 6
 大気環境部会..... 6
 水環境部会..... 6
 廃棄物 GO3 部会..... 7
 グリーン部会..... 7

会員の広場
 肺がん早期検診のすすめ ... 7
 リレー登場
 出会いと循環..... 9
 地球温暖化防止への取り組
 みについて..... 9
 掲示板..... 10
 編集後記..... 10

役員会報告

(事務局長 川邊 敏雄)

6月役員会(6月14日)

6月14日迄の会員数は、正会員 188 名、その他 11 名

1. 審議事項

会費滞納者の取扱い

- ・2年間(H17年、18年)滞納者3名は除籍とする。
 - ・1年間(H18年)の滞納者は、次回にリストを纏めて、総合的に検討する。
- 課題検討委員会メンバーと開催
- ・安丸さん、高橋尚道さん、下条さん、黒澤さん、草野さん、塩田さんの応募があった。役員会から猪股副代表、内藤役員、内田役員を選任。
 - ・検討課題は、部会、会計、会員増、事務所、内規、会員参加型行事、新規共同事業等とする。
 - ・6月中に発足させ、9月10日までに答申を貰うようお願いする。

NPO 発足について

- ・NPO 認定は8月15日頃。認定受領後、2週間以内に登記しなくてはならない。
- ・発足予定を10月1日とし、10月1日に発足祝賀会を開催する予定。

部会担当役員について

- ・市民環境報告会担当は猪股副代表とする
- ・「子ども環境体験教室」は環境科学センターが来年度から地域出前講座を開催する等、内容が変わる。内容決定後に担当役員を複数名選出する。
- ・部会活動の状況調査は、先ず会計の勘定科目を決めてもらい、その後に各部会に報告してもらう。

2. その他報告事項

環境科学センター実施の人材育成講座(環境学習リーダー養成講座等と類する講座)が本年も開催さ

れる。講座終了後に環境学習リーダー会の説明実施を申し入れる。

カーフリーデー参加について

- ・本年は、環境学習リーダー会は参加しない。
- ・横浜環境まつり共同事業参加への応募は採用されず。この応募のエッセンスを港南区生活共同推進委員会に提案する事も考えている。

7月役員会(7月12日)

正会員 157 名、賛助会員 18 名、特別会員 3 名。

1. 審議事項

名簿、ML 管理について

- ・ML 管理を原園さんから川邊事務局長と土屋役員へ移管する。
- ・名簿管理は、個人情報であり、公開については慎重に行う。

課題検討について

- ・役員会で出た課題(総会で出た懸案等を含む)については、役員会の中で処置する。
- ・課題検討委員会では、課題・諮問内容等テーマを決めないで、フリーに議論していただく。

部会の活動状況調査について

- ・各部会の予算、部員数、規約、事業内容等の状況調査を行い、NPO 化にむけて、リーダー会の組織を明確にしてゆく。

かながわコミュニティカレッジ、H19 年度委託講座企画・実施応募

- ・本委託講座企画・実施に応募する方向で作業を始める。
- ・応募対象は、「環境ボランティア養成講座」
- ・応募期間は、6月29日~8月3日で、時間の余裕は無い。
- ・7月17日 13:30 より、具体的な実行案を役員で検討する。

NPO 法人化に伴う会計処理

- ・企業会計法で行う。
- ・部会費の会計の勘定科目については各部会で支出内容を明確にし、領収書を添付すれば、勘定項目は会計担当役員が分類し、処理する。

2. 確認事項

NPO 法人の登記場所は、主たる住所を横浜市(吉田代表宅)、従たる住所を茅ヶ崎市(安丸前代表宅)とする。

NPO 法人の印鑑を2種類(登記印と銀行印)作成する

3. 提案事項

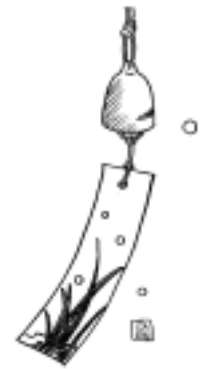
支部開設の提案

- ・地域活動サポート部の熱海役員から小田原支部と相模原支部開設の提案がされた。

- ・地域の会員の活性化と、課題の掘り起こしを目的とする。

会報発行作業についての提案

- ・会報発行作業の手伝いを役員及び会員で「輪番制」にする提案が出された。
- ・10月発行作業までに順番を決める。



神奈川環境科学センター (KERC) 訪問

代表 吉田 榮一

平成19年6月18日13時30分から新年度役員挨拶のために神奈川県環境科学センター(KERC) 所長ほか幹部の方々を訪問し、約40分懇談した。

センター側出席者は飯田和義所長、倉石隆介情報交流部長、情報交流部(環境学習担当)野崎隆夫様、K・リーダー会からは、猪股、川邊、熱海、山本、吉田が参加した。

まず、KERC に対し先日開催のK・リーダー会総会での協力、所長のご挨拶のお礼を申し上げ、KERC 側からはNPO 法人格取得の進捗状況などについての質問があった。その後、各役員の自己紹介を行い、経歴や活動内容を説明した。

NPO 法人格取得に関しては順調に進んでいる旨説明したが、非常に深い関心を示されており、K・リーダー会の今後の活動に期待されると同時に、法人格取得後はK・リーダー会に対して従来と異なる

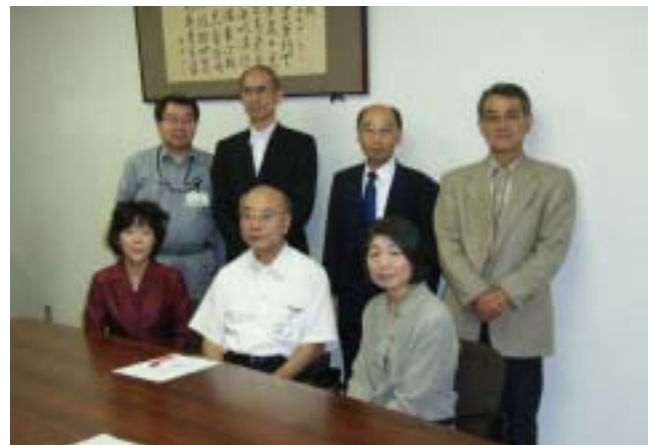
関係の構築も必要であると強調された。

役員の経歴や活動内容についても熱心に聞いてくださり、貴重なご質問やコメントをいただき、激励していただきました。

お忙しい中をご出席下さいました飯田所長はじめ幹部の皆様には厚くお礼申し上げます。

終了後、会議室で記念撮影を行なった。

この会議の設定には野崎様の大変なご尽力をいただきました。誠にありがとうございました。また、その上に記念写真も撮っていただきました。そのため、掲載の写真には野崎様は写っていません。申し訳ございません。



第6回親子で楽しむ環境展を終えて

実行委員長 安丸 元一

第6回親子で楽しむ環境展を、去る6月16日に横浜新都市プラザ(横浜そごう時計台前)で開催しましたが、神奈川県環境計画課をはじめ、多くの参

加団体、会員一同のご協力により、成功裏に終わりました。ご報告とお礼を申し上げます。

当初の本環境展目的は、会員が日頃の活動を県民にお知らせし、環境問題の大切さを訴えるものであり、この数回は「かながわアジェンダ推進センター」からの支援をいただき、温暖化防止活動の推進に一役を果たしてきました。しかし毎回、会場への来客数の低さに悩み、その都度対策してきましたがその

効も少なく、今回は、第 6 回を節目に会場を変え、出し物も実体験をメインにライフスタイルの見直しを訴える企画にしました。

結果は、2,500 人を超える来場客をお迎えすることができ、県センターが展開したマイアジェンダ登録も、150 人という盛況振りでした。紙管工作、ゴミ分別クイズ、グリーン購入、かみ漉きは用意した材料が底をつく盛況であり、マイバッグ・ふるしきの説明者は声をからず奮闘ぶりでした。またエネルギー体験、かながわ立体マップも子どもたちに大変喜ばれました。携わった方々には、丸一日を立ちどろしのご活躍でご苦労でした。そして日頃の活動を各グループ独自の編集によるパネル発表は、当環境展の特色であり他に



換えがたい内容であり、恒例になった県下エコ採点「地球をまもる君」は今回も好評でした。

しかし、反省会では、当会の訴え、パネル展示レイアウト、参加会員数、主催団体等が指摘されました。次回の開催に向け更に検討し、我々の訴えがより効果的に県民に届くよう努力しましょう。皆様ご苦労様でした。

神奈川県環境学習リーダー会 懇談会レポート

地域活動サポート部長 熱海 宗信

6月14日(木)は、6月度役員会の日であります。

今年度から、役員会終了後(16:00頃～)同じ部屋で懇談会が開催されることになりました。

その経緯は、さる5月12日の総会後の親睦会(於リビエラ)において、月に1~2度、1期生から14期生まで分け隔てなく(忌憚ナイ)環境談義を交わしたい。自由に個々人の環境観を吐露したいし、ご自分の環境実践論を聞いてほしいと同時に、逆に他の方々からもお聞きしたい(天晴れ!進取の精神)との意見・要望(切望)が出席者の多数の方々から提案されました。

それを吉田代表が耳にされて、その場で今年度(6月度)から即、役員会の後に開催と相成りました。

役員会終了後すぐお帰りになられた役員も居ま

すが、懇談会のために横浜西口まで御越しいただいた方を含めて、11名の方が出席されました。

会の次第のない(談論風発)会議ほど楽しい(?!)ものはありません。

「NPO 化論議」から始まって、様々な事業企画案、「親子で楽しむ環境展」、「K・リーダー会」の自立、会員(取分け若い会員)を増やす試み、「会をアピールする為の方策」、「K-リーダー会支部設置構想」、他の法人(含NPO)との関わり方と距離感・・・等など『エンドレス カンファレンス』は、先輩・後輩場所を移して延々と続き、横浜西口は強い雨に見舞われた一夜でありました。

『部会活動』志向で入会されている方、『会報』狙いで会員を続けておられる方、Field(守備範囲)の広さが魅力で継続入会されている方など、ご事情は様々と思います。

何れにしろ、『環境に熱い想いの皆さん、全員集合!』(8月は9日(木)16:00からの予定です)

第31回 環境・公害研究合同 発表会に参加して

金目川水系流域ネットワーク 柳川 三郎

平成19年6月4日(月)第31回 環境・公害研究合同発表会が横浜市教育文化センターホールで行われました。この発表会は、神奈川県環境科学センター、横浜市環境科学研究所、および川崎市公

害研究所が合同で行ったもので、研究発表プログラムは以下のとおりです。

1. 金目川での環境保全のための市民との協働の取り組みについて 生物保全を目的としたGISデータベースの構築と活用
2. 横浜市の源流域環境
3. 川崎市における地下水および公共用水域中の化学物質の実態調査
4. 廃棄物リサイクルセンター施設から発生する大

気汚染物質

5. 消化ガスの高品質化と高濃度 CO₂ の有効利用の研究

6. 川崎市のヒートアイランドについて 熱環境マップの作成

特別講演「地球温暖化の影響と適応策」

私たち金目川水系流域ネットワークは平成 19 年 3 月までの 3 年間にわたって、金目川の連続性、堰の状況、真夏の水溫調査、アユの生息状況を神奈川県環境科学センターと共に協働調査を行い、神奈川県環境科学センター大塚氏が調査研究の実績発表を今回されました。私は仲間と一緒に出かけ、耳を澄ませて聞きました。

この協働調査でセンター主任研究職員との交流の輪が広がり、川の連続性では回遊するヒラテテナガエビが大好きになりました。堰については県内随一の米どころの平塚市は恵みの川の水が今もなくてはならないことや、100%が農業用になっていることや、真夏の水溫調査はアユにとってどのような状況か、何度も調査のために投網を行い最大 35 cm のアユの存在を把握できたことです。アユは上流の弘法橋に 2m の高さのある堰堤のためにその上流に行き来できないことや、堰堤の上流はアブラハヤがスイスイとしていたことや、秋には、下流のアユ産

卵のときや、冬に河口から回遊するアユの稚魚を調査したことです。

冬の夜に相模灘の波によせられてウナギの稚魚が川に向かってくる様子は自然の力の偉大さを目の当たりして感激しました。

河口の大磯側には砂が多量に体積しており、私は相模湾の砂浜が侵蝕されているニュースを 10 数年前から知って、すべてがそうなのかと思いましたがこのような地区もあることを知り自然の持つパワーに驚いた次第です。そして河口も川の流れと同じように大雨のたびに流れの筋が変化していることも目で確認できました。

このように、共同で調査したことを発表していただく機会が与えられて望外の喜びで一杯です。今回の調査を最新の GIS スタイルでまとめていただいたセンターに感謝いたしました。

各種の発表会に出かけていますが、このように、仲間と行政と共に調査した活動を、行政が発表していただいたことは努力の實りとなりました。

私は、今日もアレチウリ・ブタクサ退治に励んでいます。そして川の連続性の堰の状況調査は今年も継続しています。私は自然の恵みはいたるところにあり、それをどのように生かすかを常に念頭に入れて頑張りたいと考えています。

部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動予定（'07年8月～'06年9月）

定例部会（於：県民サポートセンター）

8月8日（水）16:00～17:50 601号室

9月12日（水）16:00～17:50 601号室

10月10日（水）16:00～17:50 702号室

子ども環境体験教室（於：神奈川県環境科学センター）7月28日（土）13:00～16:00

横浜子ども科学館の環境教室

実施日は来年2月9日（土）午後と決まる。

活動報告（'06年6月～'06年7月）

6月度定例部会：

6月13日（火）16:00～18:00

場所：県民サポートセンター 601号室

参加者：藤木、小田、鎌田、児玉、二村、上野、安藤

親子で楽しむ環境展の出展内容打ち合わせ。

各種シミュレーション画像試写（2100年迄）

（海面上昇、地球の反射率変化、降雨量変化）

特に海面上昇は一律ではなく、日本の沖で最大になる様子が注意を引いた。

親子で楽しむ環境展

当日は9名の部会員が参加。

親子連れには、実験やゲームで、環境に関心のある人には、スターンレポートのパネルと温暖化シミュレーションで対応。特に実験やゲームを通じて、沢山の親子連れと対話する事ができ、その体験や会話の中で、エネルギーの大切さを訴えた。

7月度定例部会

7月11日（火）16:00～18:00

場所：県民サポートセンター 601号室

参加者：香川、藤木、小田、児玉、二村、長澤、安藤

新部会員として長澤さんを迎えた。

親子で楽しむ環境展反省

多くの環境に無関心な層とゲームや実験を通じて対話することができた。

情報交換

・再生不能な「土壌」から見たバイオエタノール

の問題点について

- ・参院選向け各党のマニフェスト比較
地球温暖化に関する項目を比較
- ・飲料用自動販売機と JIS 規格
自販機の「実年間消費電力量」と「機器に表示
の年間消費電力量」とを比較（10例）
いずれも、実消費電力量の方が大きく、平均で
1.62 倍であった。「表示された年間消費電力量」
(JIS 規格で測定)は実態を表していない事が判明。

照明について

内田重美氏(事務局)から照明に関する概論と、
いくつかの家庭について「快適さ」と「省エネ」
の視点からの診断を受けた。

日本の環境は明るくしすぎる傾向があるが、明
るければ良いのではなく、目的と雰囲気に応じた
(部分照明を含めた)照明の見直しが必要。
この点を今後の啓発活動にも活かして行きたい。

ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

ケナフ部会員が携さわった 2007 年 6 月～7 月ま
での活動及び 8～9 月の予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

5 月 25 日 ケナフ部会例会 ケナフ圃場の補植。
4 月に植えたケナフの芽がでていない場所に補植
する。今年も余り、芽が出ていないので補植する
数が多かった。6 月 16 日開催の「親子で楽しむ環
境展」の準備及び担当者の決定

6 月 16 日 「親子で楽しむ環境展」横浜都市セ
ンターにケナフ部会として「紙漉き」を実施。多
数の体験者があり、盛大であった。



左上：ケナフ部員による紙漉
き指導
右上：紙漉き体験を待つ行列
左下：紙漉き体験風景



6 月 21 日 ケナフ部会 6 月度例会 ケナフ圃場
の管理。ケナフの芽が出ていないところ、枯れた
ところを補植する。

6 月 29 日 ケナフ部会研修 栃木県烏山町和紙
会館及び工場でごそ(和紙の材料)を利用した
紙漉き体験(5名の参加)

7 月 1 日 習志野「生涯青春をめざす会」習志野
市谷津コミュニティセンターで「ケナフと環境
及び紙漉き実習」実施 荒谷

7 月 15 日(日) ケナフ部会 7 月度例会 子ども
環境体験教室「写真立てを作ろう」の準備



左上：烏山和紙会館
右上：和紙工場見
左下：紙漉き指導を受ける

2. rewood クラブの活動状況

6 月 16 日 「親子で楽しむ環境展」横浜都市セ
ンターで古紙を使った小物入れ作り実施。多数の
体験者があり、盛大であった。



左上：作品見本と材料展示
右上：小物入れ作り風景
左下：小物入れ指導風景

3. 今後の予定

7/26 環境科学センター「子ども環境体験教室」写
真立てを作ろう

8/22 環境科学センター「子ども環境体験教室」ケ
ナフを使った自分だけのハガキを作ろう

4. お願い

最近、生分解樹脂製品が注目をあびています。(た
とえば日経 7 月 14 日では植物繊維で金属並み強度
等、)どなたかこの辺の情報をお持ちの方は教えて頂

けませんか。

自然環境部会

部会長 土屋 俊幸

活動報告

6月6日に部会合を行いました。会員18名のうち4名(近藤, 安丸, 日下部, 土屋)が参加し、内容は今年度の活動について、話し合いを行いました。

6月16日の親子で楽しむ環境展に参加しました。参加内容は、「神奈川県自然環境を知る」ということで、ポスター及び神奈川県の立体地図を作成し、展示しました。立体地図とは、厚紙を等高線ごとに切り取って重ね合わせ、地形を表現したものです。

活動予定

9月9日に自然観察会を予定しています。場所は横浜市 寺家ふるさと村で、里山の見学を計画しています。詳細が決まりましたらメールリストで案内いたします。部会員以外のかたもぜひご参加ください。



大気環境部会

部会長 猪股 満智子

活動予定 (8月~9月)

7月19日(木)13:30~16:30 NPOセンター大船「VOC・PRTRプロジェクト」

7月28日(土)13:30~15:00 横浜市金沢区昭和町(独)海洋研究開発機構横浜研究所公開セミナー「大気汚染を予報する」

9月15日(土)13:30~16:30 NPOセンター大船定例部会 主なテーマ

- ・6月度NO₂測定評価と新マップの検討評価
- ・NPO法人化後の部会運営
- ・VOC・PRTRプロジェクト報告
- ・(独)国立環境研究所、(独)海洋研究開発機構両セミナーの情報交換 等々

活動報告(6~7月)

6月4日(月)PM 関内 横浜市教育文化ホール「県・二市環境・公害研究合同発表会」

6月7日(木)18時~7日(金)18時 各地測定点 NO₂ 24時間測定

6月16日(土)8時~18時 横浜駅新都市プラザ「親子で楽しむ環境展」に出展(立石、猪股)

6月17日(日)13:30~15:30 KERC 実習室 17名 NO₂分析 今期濃度は全体に低め=良好

6月24日(日)PM 国立環境研究所シンポジウム

7月14日(土)12時~17時 横浜市こども科学館「洋光台サイエンスクラブ」自然環境教室で「大気汚染・地球温暖化をしらべよう」を開催 講師; 安藤、伊藤、安丸、猪股

この事業は05年に国の地域子ども教室推進事業としてスタートしたものの、07年度からは科学館と地域の協働による自主的活動として事業を継承。

地元在住の当会会員・高橋尚道氏の仲介によりK・リーダー会が3本の事業を受託できた第1弾。

参加費500円、定員24名に対し小4年~中3年生、そして親2名を含めた52名の応募があった。台風襲来前の大荒れにもかかわらず、欠席者無しという関心の高さであった。

水環境部会

部会長 斉藤 昭一

8月の部会活動はお休みです。各部会員は地元及び青少年達との水環境を中心としたそれぞれの活動を展開してください。また水環境を根底とした地球

温暖化防止運動の推進も進めてください。次に後半の日程が決まりましたのでお知らせします。「9月16日、10月21日、11月18日」(すべて日曜日)です。集合場所はJR鴨宮駅海岸側、9時集合です。後半も宜しくお祈いします。

6月17日今期3回目の調査、鴨宮駅9時集合。

環境科学センターより石綿研究員を招いての調査でした。参加人員は杉崎、柳川、田村、猪俣、古谷、齋藤の6名でした。

小田原大橋下(第6ポイント)水温24、気温24.9。採集したものは、ウナギ、ナマズ、シマドジョウ、ヌマエビ、ヒラテテナガエビ、カワトンボ。

次に(第7ポイント)狩川、連正寺橋下の調査、水温20、気温24、採集したものは、タモロコ、ハヤ、ナマズ、ヒラテテナガエビ、ヌマエビ、シマドジョウ、シマイシヒル、サナエ、ハグロ、カワの各トンボの幼虫でした。

今回の調査を振り返り、駐車場の問題、参加人員の問題、これから考えていかねばならない事柄が増えていくような気がしてきました。特に連絡なしの「無断欠席」はなくしていきたいものです。それぞれが自発、能動の心で決意して参加をして頂いていると思います。欠席のときもそれぞれがやむを得な

い事情によるものと思いますが、どうかそれなりの理由をお知らせ戴ければ幸いです。次号には7月の活動を報告させていただきます。



廃棄物GO3部会

部会長 内藤 克利

7月1日 平塚市民活動サポートセンターで会合。

分別カレンダー収集は完了したが、アンケート回収は一部未回収。37市町村の内相模原市に合併した4町は相模原市の管理下で従来通りの方式で廃棄物回収。

7月29日実施予定の環境科学センターでの講座「ソーラークッカーを作ろう」についてやり方について話し合う。組み立て方式は若干変更した。時間内に済ますためとごみ発生抑制のため。

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

<活動予定>

8月7日 13:30~ ミーティング(平塚市民活動センター)

買い物疑似体験プログラムの改善に向けた検討
グリーン部会へご興味のある会員の方は是非ご出席

ください。

<活動報告>

6月16日 親子で楽しむ環境展出展

6月29日 ミーティング(平塚市民活動センター)

親子で楽しむ環境展 ふりかえり

今後の活動について意見交換

会員の広場

肺がん早期検診のすすめ

佐伯秀夫(横浜市)

去る5月14日著名なジャーナリストの筑紫哲也さん(71)は、ご自身がメインキャスターを務めておられる報道番組の中で、肺がん検診を受けたところ初期の肺がんにかかっていることがわかったので治

療に専念するためしばらく番組を休むと報じておられた。実をいうと私も、筑紫さんより半年程前の昨年(平成18年)10月、肺がん検診を受けて初期の肺がんにかかっていたことがわかり、早速、肺がん部分を除去する手術を受け、現在は日常生活をする上で支障の無い迄に回復し早期検診の有難さを実感していたところであったので、私の場合の体験を以下に述べてご参考に供することとしたい。

現在我が国では、病気による死亡者数の中で、が

んにより死亡する人の数がトップになっており、その中でも肺がんによる死亡者数は最も多いといわれている。そして、肺がんの発生要因としては煙草の喫煙によるものや事業所、自動車等の排ガスがもたらす大気汚染によるものが主なものとされているので、今後の老年人口の高まりや大気汚染の動向等を考えると、肺がん発生の傾向は益々大きくなるものと思われる。

私の場合は喫煙もしないしマイカーも持たず、しかも横浜市の丘陵地帯にある我が家では住居の周囲に 20 数本の常緑樹を植えたり、周囲を取り囲む塀には蔦を廻らしたりして大気汚染物質の抑制に努めてきたし、大気環境部会の一員として大気汚染防止を対象とした諸活動にも参加してきたので、自分が肺がんに侵されるようになるなんて夢にも考えていなかった。従って毎年受診してきた人間ドックも、肺がんに関する検診については X 線検査のみで済ませ、毎回異常なしの受診結果が得られるのを当然のことのように受け止めてきた。

その私が今年の肺がん検診に関しては、春に恒例として受診した X 線検査に加えて、秋には本格的な肺がんの精密検診といわれる「ヘリカル CT 検査(以下、本検査)」を受けたことは、今考えるとまことに奇運な感じがするのであるが、結果として本検査により私の初期の肺がん発生を見付けることができた訳であるから、私にとってはこの上も無い幸運であったというべきであろう。

そこで私が本稿で先ず申し上げたいことは、私のように煙草も吸わずマイカーも持たず、且つ肺がんにならないように意識的に努力している積もりの者でも肺がんになるという事実である。煙草を吸わなくても副流煙は吸う訳であるし、自動車に乗らなくても街中を歩けば自動車の排ガスは吸っている。又、県が毎年公表している PRTR によっても事業所排出ガス中の発がん性物質を減少させる見通しは不明確である。しかも発がん性物質として特定されていない化学物質、例えば近年益々の悪化が心配されている光化学オキシダントも、これを吸入すると肺に炎症を惹き起こさせ発がん性物質による発がんの進行を助ける働きをすると記述した文献もある。このように考えれば、喫煙者やマイカーを楽しんでいる人はもとより、老年の方なら誰でも、肺がんを疑ってもよいのでは無かるうか。

次に申し上げたいのは「ヘリカル CT 検査」についてである。この検査が前述したように私にとって命の恩人ともいべき存在なのであるが、本稿を読まれる方々の中で本検査についてご存知の方は少ないのではなかるうか。

私は本検査を、昨年(平成 18 年)10 月、横浜市

立市民病院・がん検診センターで受診したのであるが、実は私も本検査のことを知ったのはその受診日の半月前のことであった。同検診センターではがん検診の予約を電話受付しており、当時調子を崩していた胃についてのがん検診を受けるため電話予約したところ、正式予約をするための申込書が送られてきたのであるが、それと同封されてきたのが同検診センターの案内書で、その案内書の中に肺がん検診として「ヘリカル CT 検査」が記載されていたのである。

そこで私自身の肺がんの有無を調べるといふよりむしろ、リタイアして以来十数年間続けてきた大気汚染問題に関する学習の一環として受診することを思い立ち、早速、同検診センターに電話したところ、胃がん検診で予約していた検診日と同じ日に、肺がん検診も可能であるとの返事をいただいたことで、本検査による検診が実現したような次第である。

ここでヘリカル CT 検査について紹介すると、それは機能化された一種の X 線検査ともいべきもので、受診者は検査台の上に仰向けになり呼吸を止めている間に検査台が水平移動する一方、X 線を放射する管球が受診者の周囲をぐるぐると高速回転するようになっているため肺全体を螺旋状に X 線撮影することが出来、その結果がんの存在を立体的に探查できるようになり、従来の X 線検査では発見できないような早期がんを見付けることが出来るという訳である。従って、本検査は寝ながらにして受けられる X 線検査なので、痛くもなく短時間に済むという受診者には望ましい検査といえる。なお本検査装置の出現には日本人の開発努力が大いに貢献しているとのことである。

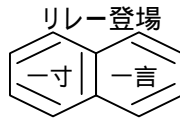
かくて本検査を受診したことにより私の肺の一部にがんの存在することが判明したのであるが、幸い早期の発見だったため、検査結果の説明を受けた日の翌日には早々に横浜市立市民病院に入院して、がんが発生していた当該肺葉を切除していただいた。入院期間はちょうど 2 週間で済んだ。

それから約半年、肺がんに十二分に配慮していたにも拘わらず肺がんになってしまったという自らの肺がんに関し弱体質に配慮し、日常生活におけるアフターケアの徹底に心掛けて毎日を過ごしているつもりであるが、併せてアフターケアを実践するのに適した環境の住居への移転(本年 10 月予定)を進めているところである。

以上がこのたびの私の肺がんに関する体験記であるが、喫煙やマイカーを楽しんでおられる方はもとより、或る年齢以上に到達した方は是非、手遅れにならないうちに可及的速やかにヘリカル CT 検査を受診されることをお勧めする次第である。なお横浜

市立市民病院・がん検診センターでは、横浜市以外の市民にもがん検診の門を開いているとのことである。

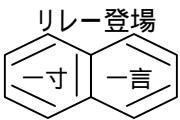
出会いと循環



福田 采一（横浜市）

団塊は故郷へ回帰、永年都会での生活環境の変化、地球規模での変容も身近に、日常食にも及び故郷の田畑に思いは尽きず、理想とも思える郷土の土に、古人の知恵の復活かけて、団塊の某人は、堆肥化研究に意欲。旧来から林業、牧畜の盛んな風土、林業パーク、畜産、排泄糞尿と堆肥原料は尽きることなし、その上、地域農業協同組合所有施設の利用について、譲渡への制約を得る等、其の最中、近接地内産業廃棄物不法投棄発覚平成 11 年青森、岩手に跨る其の規模は面積 27 ha 推定投棄量 90 万 m³に及ぶとのこと、日本最大規模事犯が報ぜられる。驚愕の内訳と云うのは、各県別に面積青森 11 ha 岩手 16 ha、投棄物量 青森 67.1 万 m³、岩手 20.5 万 m³ 前記 90 万 m³に及ぶ大量投棄量、青森、岩手、県境対策、処理対策手順として、生活環境対策優先整備他多様な対策を手がける等、高額な対策費用について国は急遽「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」平成 15 年 6 月 18 日制定。平成 16 年 1 月 21 日原状回復事業着手。平成 18 年域外処理本格化 平成 24 年事業完了に向け稼働中

地球温暖化防止への取り組みについて



鈴木 和美（綾瀬市）

こんにちは

昨年神奈川県環境学習リーダー会に入会しました。よろしくお願ひいたします。

私は藤沢市にある企業に勤めており、環境関係の仕事、主に環境に配慮した製品（エコプロダクツ）の推進をしています。というわけで、現状ではあまり活動には参加できませんが、社会貢献は、企業を通じてだけでなく、一個人としても何らかの活動を通じて社会に貢献したいと思っております。その社会貢献について、行動では皆様にはるかに及びませんが、その思いは皆様と同ではないかと思っております。

環境に対する取り組みは、多種多様ですが、現在

ある。其の廃棄主体物の中にパーク（樹皮）大量層を成しての確認、当該研究途上の適合物と判断対策処理事業の一助にと発想、畜産物排泄物堆肥化製品施用農地供給先について行政側農政担当要員の支援を得、農業者グループの紹介（西瓜、メロン、トウモロコシ）施肥試験認定肥料提供。

生産品について市場への道について

人のお出合いの妙 当研究者の旧知産能大講師の指導を得た流通業界大手事業用食材専門スーパーの実績評価の延長に農産品及び加工品の取り扱いに成約を得、市場への道が開かれることとなり、既に米作農家、林檎園、葡萄園等市場の実績と評価を得ている。商品成形残渣については、配送者に依り堆肥化施設に原料として戻入する。尚 今後の収穫される受託物長芋、ラッキョウ、ニンニク、メロン、西瓜、トウモロコシ等加工品を含む多種に至る農産品の見本展示イベントを企画、本 7 月より 8 月初旬にかけ銀座店舗を始め、都内各店舗を賑わせることが推定されループ？詰を眼にすることを、期待して居ります。ループ実現の動機について K・リーダー会を源流としたサロンの出会いから生じたことを付け加えさせていただきます。

次号、第 4 期 菊地清明氏にお願いしてあります。

皆様が重要だと考えておられるのは、この会報を拝見しますと地球温暖化対策だと思われ、私も同意見です。その対応として「廃棄物 GO3 部会」の取り組みなども、地球温暖化防止への取り組みとして地域の活動に密着し、継続して成果を上げえるものと評価できると思います。

この、地球温暖化対策の取り組みについての私見は、下記 URL で述べさせていただきましたのでご覧いただければ幸いです。“地球温暖化防止への取り組み”と題した 3 回の連載です。

(1) <http://www.neca.or.jp/control/green/PDF/kan0604.pdf>

(2) http://www.neca.or.jp/control/green/PDF/kan0606_1.pdf

(3) http://www.neca.or.jp/control/green/PDF/kan0608_1.pdf

この 3 回目の最後で結論として述べていますが、私は現在一番必要としているのは環境教育であると

考えており、「グリーン部会」がグリーン教育支援システムを通じて学校での授業を実施されているのは、大変心強く思っております。私としても折を見て何らかのサポートができればと思っております。

掲示板

広報部からのお知らせとお願い

会報以外の同封物がない時には、電子メールへの添付ファイル（PDF形式）として、会報を希望者へ発送しています。費用の節約もありますが、それ以上に用紙、運送の環境負荷を低減できていると思っています。現在約7名の会員の方が、電子メールで購読されています。電子メールによる会報購読をご希望の方は広報部（鎌田）までご連絡ください。

会報編集・発行は会員の皆様のご協力により成り立っています。投稿、編集、発行（発行作業は通常偶数月最初の週末午前中に横浜駅西口 かながわ県民センター）へのご協力をお願いします。参加可能な方は広報部（鎌田）までご連絡ください。

「地球っ子ひろば」(代表 斉藤美代子さん)の『エコかるた』が大賞受賞！

当会員である斎藤美代子さんが代表をしている「地球っ子ひろば」が「07 湘南ゆめプロジェクト実践プラン部門大賞」を受賞しました。「地球っ子ひろば」は、平塚で子供と親の環境教室を開催し、田んぼの探索やてんぷら油でロウソクづくり等、ユニークな教室で好評を博している環境活動グループです。今回は、グループ創立5周年記念に、子供達に考えさせながらエコかるたを制作したことが大賞受賞となりました。07 湘南ゆめプロジェクトは、「リビング湘南」を発行している湘南リビング新聞社が主催しているもので、環境保全の一助にとの趣旨で「エコロジー」をテーマに今年が始めて募集を募ったものです。受賞した「エコかるた」は、読み札も絵札も子供達に応募してもらったもので、厚紙の上に和紙と絵のコピーを重ね、カバーをかけるという手間のかかる作業により作られ、とてもユニークできれいな仕上がりになっています。このような地道な活動が、子供達の夢と能力を引き伸ばし、環境に対する意識がさらに高まって行くことにつながっていくことなのでしょう。今後、ぜひK・リーダー会の皆様もこのような受賞をめざして、チャレンジして下さることを願っています。

よろしくお願いいたします。

今回は同期で、同市の成井正人さんをお願いいたします。



「地球っ子ひろば」が作成したエコかるたの一例
(写真は斉藤美代子様より提供)

編集後記

「100万人のキャンドルナイト」

夏至を迎えた6月の週末に私の住む大和市中心林間駅前で、地元の仲間と一緒にキャンドルナイトを行った。会場は駅前のスーパーが提供してくれた。スーパーは環境省の呼びかけに応え同時にブラック・イルミネーション(屋外広告灯の消灯)を行った。参加人数は決して多くはなかったが、その場所でのキャンドル・ナイトは今回が初めてであると思う。明るい照明に慣れすぎてしまった我々、特にこれからの世代に照明の大事さとその裏にあるエネルギー消費を実感してもらえたと期待する。

広報部 鎌田 裕二

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 吉田 榮一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2007年8月4日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/